

平成23年度 中央区立久松幼稚園 自己評価報告書

中央区立久松幼稚園 住所 東京都中央区日本橋久松町7-2

園長 酒井 寛昭

幼児数 143名 学級数 6 教員数 8名 職員数 5名

教育目標

人間尊重の精神を基調として、生きる力の基礎を培う教育を推進する。心身ともに健康で主体的に身近な環境や人とかかわりながら、節度ある礼儀や基本的な生活習慣、規範意識の基礎を培うことを目指し、次のような子どもの育成に努める。

- たくましい子 ・心身ともに健康な子を育てる。
- 進んでやる子 ・素直に表現し、自ら考え進んで行動できる子を育てる。
- 心豊かな子 ・思いやりの心を持ち、生命を大切にする心豊かな子を育てる。

重点目標1

自分から進んで健康で豊かな生活を送れるように必要な様々な習慣や態度を身に付けられるようになる。そのために体験と繰り返しを重視する。特にあいさつをする心地よさを味わえるようにする。

評価項目：

- ①保護者との連携を密にしながら、基本的な生活習慣（うがい、手洗い、衣服の着脱、トイレなど）を幼児一人一人が身に付けられるようにする。
- ②様々な人とあいさつをする心地よさを感じられるように、繰り返し指導していく。

評価指標：

- ①保護者と幼児一人一人の成長や課題について降園時に話し合ったり、園便りや学年・学級便りを通して基本的な生活習慣が身に付くように知らせたりする。幼稚園のいろいろな活動の中で幼児一人一人に生活習慣が身に付くように指導する。
- ②様々な人とかわる場面を通して、笑顔で相手を見て気持ちのよいあいさつができるように指導する。

重点目標2

学級・学年を超えたきょうだいのようなかわりがもてるように、他学年と一緒にする交流活動を充実させる。

評価項目：

- ①異年齢の交流から、やさしさやいたわり、憧れの気持ちをはぐくむように意図的・計画的な取り組みをする。
- ②学級・学年間の交流の他、小グループでの異年齢活動を取り入れる。
- ③久松小学校との連携を深め、他の幼稚園や保育園の子どもたちとの交流の機会を設ける。

評価指標：

- ①他学年の幼児との交流を意図的・計画的に進め、一緒に遊ぶこと・かわることを楽しむ姿がみられるようにする。
- ②教職員で全園児を育てている意識を持ち、情報交換に努め、幼児一人一人の様子を把握する。また、全職員の連携を深め、幼児の興味・関心をとらえた保育内容を工夫し、保育の充実を図

る。

- ③教育課程に位置付けた小学校との交流を基盤としながら、小学校の教職員と連携を図り、憧れの気持ちを感じたり、小学生のやさしさに触れたりしながら交流が深められるようにする。また、他の幼稚園や保育園との情報交換や交流活動の充実を図れるようにする。

重点目標 3

身体全体を動かして遊ぶことを中心に、たくましい心と体の育成を図る。

評価項目：

- ①コミュニティ道路、校庭、体育館、屋上という環境の特性を最大限に生かし、個や集団での体を動かす活動・遊びを繰り返し行うようにする。
- ②マイスクールスポーツの走る活動（鬼ごっこ・かけっこ・リレー遊び）などに喜んで取り組めるようにする。

評価指標：

- ①環境の特性を生かしながら、個や集団での身体を動かす活動・遊びの工夫をする。
- ②「走る」楽しさを幼児一人一人が感じられるように、身体を動かして遊ぶことを楽しめるようにする。その際、各年齢の発達に応じた取り組みをする。

重点目標 4

幼児の生活や心情を豊かにするために、栽培活動、食育、伝統行事を積極的に取り入れる。

評価項目：

- ① 植物に親しみ、保護者とともに植物を計画的に栽培する。
- ② お弁当を中心に据えながら、育てて食べるなどの食育を推進し食への興味や関心を高める。
- ③ 七夕、地域巡りでの獅子舞、お正月遊びを充実させ、様々な人とかかわる。

評価指標：

- ① コミュニティ道路での栽培活動を充実させる。保護者も一緒に土づくりから参加したり、ガーデニングクラブの活動に参加したりすることを通して、うるおいのある環境整備をしていく。
- ② 弁当時には、弁当を作ってくれたことへの感謝の気持ちや残さず食べる気持ちよさなどを感じられるようにする。また、水遣りなどの世話を通して幼児が生長を楽しみにしながら栽培したものを使用して食べることの活動を充実させる。
- ③ 伝統行事を通して季節感を味わったり、地域社会の方々と触れ合ったりしながら、幼児一人一人の心情が豊かなものとなるようにする。

教員・保護者のアンケート結果から分かったこと

1 重点目標の達成状況と取組状況

生活習慣の「あいさつ」については登園時の「おはようございます」降園時の「さようなら」だけではなく、日常生活のいろいろな場面であいさつする心地よさを感じられるように継続した指導を行ってきたことで、幼児一人一人に習慣として身に付いてきていることが、成果として現れている。身の回りの始末なども、幼児の発達に即した指導を行うことで、身に付くようになっていくと考える。

5歳児になると、コミュニティ道路で遊ぶ際に地域社会の方と触れ合う場面でも、自分からあいさつをするようになり、3年間の経験の積み重ねを今後も大切にしていきたい。

「きょうだいのようなかわり」がもてるよう他学年との交流活動の充実を図ってきたが、保護者アンケートでは、評価項目③他の幼稚園や保育園の子どもたちとの交流の評価点がア「そう思う・よくできている」の数値が38%で低くなっている。情報発信をきめ細かく行い、保護者への理解を深めていくことが課題と考えられる。

身体全体を動かして遊ぶことでは、保護者の評価点では、環境の工夫について昨年度よりも評価点が高くなっている。また、教員の学校評価においても、園内研究で取り上げ、「体を動かして遊ぶことが大好きな幼児を育てるために」を研究副主題に据え、教材の工夫や環境構成、教師の援助について、各学年の実践を検討し、教員全体で共通理解を図ってきたことで、評価点が昨年度よりも高くなった。

栽培活動・食育・伝統行事を積極的に取り入れる項目では、保護者の評価がイ「ややそう思う・できている」の評価点が高くなっている。幼稚園で実際に行っていることを積極的に情報発信し、理解を深めていくことが課題と考えられる。

24年度に向けた取組

①今年度、東京都安全教育推進校として、生活安全、交通安全、災害安全の視点から安全教育を見直し、安全教育の全体計画を作成した。日常生活の積み重ねの中で指導を繰り返し行い、3・4・5歳児の発達に即した指導を行うことで、幼児一人一人の安全に対する意識を高めていくことが大切である。幼稚園・小学校で一貫した全体計画・指導計画の見直しを行っていく。

②幼稚園70周年・小学校140周年に向けた取組を行う中で、年間を通して様々な行事を行い、幼児一人一人がお祝いする気持ちをもって過ごせるようにする。

平成23年度 中央区立久松幼稚園 学校関係者評価報告書

評価委員会名：学校関係者評価委員会

評価委員：川名信一委員、川口修一郎委員、関口利子委員、佐藤寛委員、望月邦夫委員
福田俊子委員、渡辺圭子委員、吉澤功勝委員

評価時期 平成23年2月6日

1 重点目標の評価（評議員の方々から）

重点目標1について

- ・あいさつは人との関わりにおいて基本となるので、幼児の時からあいさつする心地よさを十分に味わえるようにしてほしい。言葉の美しさや丁寧さも同様に指導してほしい。
- ・基本的な生活習慣では、手洗い・うがいが大切である。小さい時から習慣となるように指導をしていくようにしたい。

重点目標2について

- ・思いやりの気持ちを育てていくために、きょうだいのような関わりを通して、心を豊かに耕してほしい。
- ・保育園・幼稚園・小学校の連携は今後も充実を図ってほしい。

重点目標3について

- ・今後も園庭、体育館、屋上、コミュニティー道路等の環境の工夫をして、体を動かして遊ぶ活動の充実を図っていくことを継続してほしい。

重点目標4について

- ・地域社会とのつながりでは、地域の文化に触れることも大切にしてほしい。久松町会の餅つきへの参加や継続している地域めぐり、七夕の交流などは地域社会も協力体制ができている。よりよい交流のために双方向での情報を発信していきたい。

2 今後の改善に向けた意見

- ・安全指導については、幼稚園、保護者、地域社会ともに意識が高まっている。危険を予知・察知・回避する能力を育てたい。
- ・園児数が増え、学級数も増えることで、いろいろな課題があると思うが、改善点をしっかりととらえて工夫を積み重ねてほしい。
- ・来年度は70周年に向けて、幼児と保護者にはお祝いの気持ちをもって過ごしてほしい。地域社会への周知を積極的に図ってほしい。

3 その他の意見

- ・今後益々、幼稚園も保護者も地域社会も一体となって子育てをしていくためには三方向での情報の共有が重要である。一層の努力、充実を目指してほしい。